

令和4年度自立支援協議会実務者会 報告

1. 今年度の取組内容

実務者会を改変し、2年目となる今年は「座談会での地域課題抽出」と「透明性の確保」のため専用ホームページを作成し、議事録等公開を行った。座談会開催、ヒアリングの実施で12月を専門部会への引継ぎテーマを決定し、引き続き「教育と福祉の連携」について継続課題として、次年度も合わせて検討していく。

自立支援協議会実務者会 開催状況

	日時	場所	内容
第1回	令和4年5月26日	保健福祉センター	前年度の振り返りと開催スケジュール案の確認。
	令和4年7月22日 7月29日	保健福祉センター	座談会の開催、「課題のまとめ表」を作成。
第2回	令和4年8月22日	保健福祉センター	座談会の報告、グループ意見から困りごと、ニーズの集約。たたき台の作成を行った。
第3回	令和4年9月29日	保健福祉センター	座談会で出た意見をもとに課題集約し専門部会への引継ぎ事項を設定した。 課題を具体的にするため関係事業所へのヒアリング実施準備を行った。
	令和4年10月～11月		構成員によるヒアリングの実施。
第4回	令和4年12月14日	木口記念会館	取組課題の決定「ライフステージの可視化」と「教育と福祉の連携」を継続課題とする。
第5回	令和5年2月27日	保健福祉センター	木下先生からのSV →次年度「教育と福祉の連携」というテーマで教育関係者と協相互理解を深め協業するためのSVをいただいた。

3. 来年度のスケジュール

	日時	場所	内容
第1回	令和5年4月	調整中	実務者会の目的を構成員と確認し共有 令和5年度取組の確認と共有 スケジュール作成

令和5年度 実務者会構成員(案)

構成員	No	所属	名前	
	1	株式会社メディケア・リハビリ PARC (パルク) あしや	亀澤 康明	正
	2	芦屋市身体障害児者父母の会 (芦屋市障害者連絡協議会)	能瀬 仁美	副
	3	就労継続支援B型ウイズあしや	阪田 昌三	
	4	阪神南障害者就業・生活支援センター	大浦 由美	
	5	芦屋市障がい者相談支援事業	津田 美穂	
	6	芦屋市特別支援教育センター		
オブザーバー (学識経験者)		兵庫県立大学大学院教授	木下 隆志	

事務局	芦屋市障がい者基幹相談支援センター	
	芦屋市 福祉部 障がい福祉課	

令和5年度 芦屋市自立支援協議会 専門部会 計画書（案）

1. 令和5年度芦屋市自立支援協議会専門部会のテーマ

障がいがある人の『**現在地**』がわかるライフステージのフローを作成する。

2. 令和4年度芦屋市自立支援協議会実務者会でのテーマ・内容を決めた経緯

令和4年度実務者会では、2日間にわたり座談会を開催し参加者より『困りごと』『要望・ニーズ』を集めた。集約した話題から検討した結果以下の『困りごと』に着目することとなった。

- ・未就学→小～高校等→就労とライフステージが変わるごとに「支援の切れ目」を感じる。
- ・サポートファイルなど既存ツールの重要性や活用方法を周知しきれておらず、生かしきれていない。
- ・ライフステージごとの制度や相談先などの情報がわかりやすく集約されているものがない。
- ・子が現在ライフステージ上のどの地点におり、将来のためにどんな準備などしたらよいか知りたい。

上記のような『困りごと』の解決につなげるために、「実現可能性」「緊急性」「必要性」の確認/検証を経てヒアリングを行った。そこから、具体的な取り組みとして、芦屋市で暮らす保護者や本人が『現在地』を確認できるフロー図などの作成をすることとなった。

3. 令和5年度活動内容（案）

- 各機関、事業、行政、学校などが持つ既存のフローを調査・集約する。
- 集めたフローを基に障がいがある人や家族が『現在地』を知ることができるものを作成する。
- 作成物の周知・活用方法について検討する。
- 作成物や周知・活用方法について実務者会に報告し、地域課題解決に寄与したか評価を得る。

4. スケジュール 案（令和5年度芦屋市自立支援協議会専門部会）

4月



5. 令和5年度芦屋市自立支援協議会専門部会構成員（案）

別紙参照

令和5年度 専門部会構成員（案）

構 成 員	No	所属	名前	正副
	1	芦屋市手をつなぐ育成会		
	2	あっとオーティズム		
	3	三田谷治療教育院 治療教育室		
	4	児童デイサービス まいきっず芦屋精道		
	5	三田谷治療教育院 ワークホームつつじ		
	6	芦屋市障がい者相談支援事業		
	7	芦屋市教育委員会		
	8	兵庫県立芦屋特別支援学校		
オブザーバー	実務者会構成員			

事 務 局	芦屋市障がい者基幹相談支援センター	
	芦屋市 福祉部 障がい福祉課	